

# 優秀賞

【題名】 「きつつきの商売」を読んで  
【学校・学年】 倉吉市立小嶋小学校三学年  
【氏名】 宮本 昌治

この物語を習った後、ぼくたちの小学校は  
りん時休校になりました。だから、家族でも  
し自分がおとやだったらどんな音を売ろうか、  
話をしました。お父さんは、  
「とくいりょう理のやきそばを作る音。肉と  
野菜を一気にいためると、ジュってい  
い音がするぞい。」  
と言いました。お母さんは、  
「ドライヤーでかみをかかす音。シャンプ  
ーのいにおいのトツピングつき。」  
とわらって言いました。ぼくは、どんな音を  
売ろうかなやんぞいると、お母さんが、  
「まさなるのっておきの、とくとくとくとく  
べつメニユーは、やっぱり音読だなあ。」  
と言いました。  
ぼくは、この物語を声に出して読むのがす  
きです。とくに、きつつきがぶなの木のみき  
をかいたばいたいた時にぶなの森にこだま  
した、<sup>コ</sup>コーン<sup>コ</sup>という音を読むのが大好き  
です。声の大きさをだんだん小さくして、森

いっぱいにひびく音を表げんすると、ぼくも  
ぶなの森にいるような気分になれます。そし  
て、教室で三年二組のみんなと音読した時の  
ことを思い出します。たんじんの先生が読ん  
でくれたことも思い出します。三年二組には  
声が大きくてあいさつがとく意なけいとくん  
がいます。けいとくんのとくべつメニューは、  
☞ おはよう☞だと思ひます。それから、いつ  
もはやさしい先生のは、☞こら☞です。じ  
どうセンターの先生の☞おかえり☞は、ごき

たてのホカホカしたあたたかい音です。いろ  
いろな人のとくべつメニューを考えていると、  
なんだか早くみんなに会いたくなりました。

野ねずみの家族は、いつも聞いているきら  
いだ。たばすの雨の音を、しんとだまって、  
目をとじて聞いた時、すてきな音だ。って気  
付いたようでした。ぼくは、りん時休校中家  
です。ごす時間がふえて、いつも聞いていた教  
室のいろんな音やみんなの音が大切なものだ  
ということに気が付くことができました。そ

して、ぼくの音読がお父さんとお母さんにと  
ってのとくべつメニューで、二人に元気をあ  
げていることも分かって、うれしい気持ちに  
なりました。